

研究会報告

第十三回基礎電気化学フォーラム報告

北隅 優希

2010年7月24日に京都大学桂キャンパスにて開催された第十三回基礎電気化学フォーラムの報告を行う。

今回のテーマは「奇妙な振る舞い—イオン液体の電気化学」であり、イオン液体を本フォーラムのテーマに取り上げるのは第九回「イオン液体の電気化学」以来2回目である。この2年の間にもイオン液体に関する論文数は加速度的に増加しており、世界におけるイオン液体の注目の程を知ることができる。そのなかで、最近明らかになってきたイオン液体の独特さを中心に据えた3件の講演が行われた。

まず、本会の主催者でもある垣内隆先生により「イオン液体の緩慢緩和」と題し、イオン液体水溶液界面およびイオン液体電極界面における電気二重層構造の変化が非常に遅いこと、それが電極反応に及ぼす影響についてどのように考えることができるかという講演が行われた。ついで、大阪大学の桑畑 進先生により「イオン液体中の電気化学反応の電子顕微鏡観察」と題し、イオン液体を用いることで可能となった電子顕微鏡を用いた電気化学反応のその場観察について講演が行われた。最後の講演は慶應義塾大学の片山 靖先生による「金属イオンの電極反応と金属電析」であり、イオン液体中での金属電析反応を丁寧に解析することで明らかになった溶媒としてのイオン液体の特徴に関するものであった。3講演とも活発な質疑が行われ、また、懇親会にはフォーラム参加者の半数以上にご出席いただき、本会が研究者同士の討論の場、交流の場として好評いただいていると実感した。

本フォーラムに関する情報をウェブ上(<http://www.fm.ehcc.kyoto-u.ac.jp/>)に掲載している。基礎電気化学フォーラムの最新情報についてはそちらをご覧ください。



講演会場での質疑応答（左）および懇親会場（右）の光景

（きたずみ ゆうき・京都大学）